

四万十公社第3期（平成26年度）

事業報告

【公益目的事業：ケーブル事業（指定管理）】

■加入状況

区 分		平成 25 年度末	平成 26 年度末	前年度比
基本 サービス		7, 298	7, 257	▲41
	うち休止	129	142	13
ネット	128K	824	701	▲123
	30M	1,721	1,848	127
	100M	195	202	7
STB		1,397	1,353	▲44
	レンタル	1,059	743	▲316
	以外終了	0	292	292
	買取	338	318	▲20
有料放送	ファミCH	1,375	1,336	▲39
	ペイCH	83	78	▲5
IP電話		161	158	▲3

■工事件数（849件）

- ・ O N U 工 事 : 232件（新規、移転、撤去、交換等）
- ・ 障 害 工 事 : 121件（断線、機器故障、小動物等）
- ・ 電力柱移転工事 : 103件
- ・ N T T 柱移転工事 : 131件
- ・ 受注による移転工事 : 20件
- ・ 部 品 交 換 工 事 等 : 242件（ONU 部品交換、現地調査等）

1. 自主放送に関する事項

1) 自主放送

コミュニティ放送としての特徴を活かし、「四万十町らしさ」を感じることでできる多様な番組を編成し、多くの人から愛され頼りにされる放送を目指し、今まで以上に、字幕スーパー表記の工夫をするとともに、全ての視聴者に理解してもらえる原稿作りに努めました。

(1) 四万十うおっちゃんぐ

地域、人物紹介、サークル紹介、美術館情報など概ね10分の企画コーナー（みんなのギャラリー、るるぶら、四万十ケーブルテレビナウ）を継続して制作しました。また、旬なテーマで突撃取材する「町かどチェック」を町内のあらゆる場所で行い、多くの町民に出演していただきました。そして、地域情報センターと連携したコーナーを設け、町内の歴史や暮らしの知恵を読み解く番組を制作しました。

ご好評いただいた「運動会スペシャル」に町内の保育所等12か所を加え、のべ27か所の運動会を放送し、同じくご好評いただいた「秋祭り特集」では町内12か所の秋祭りを放送しました。また、グルメレポート形式の番組や「旧道」をとりあげた番組など、新たな試みも行いました。

(2) 生中継・収録番組・特別番組

日曜日の放送枠を利用し、積極的に生中継、収録番組、特別番組を放送しました。また、音楽祭や運動会などの学校行事や、台地祭り等の町行事へも積極的に出向き中継車を活用しました。

中継車の活用については、以下の実績となります。

- ・ 7/18 金太郎夜市<生放送>
- ・ 7/28 防災シンポジウム
- ・ 8/23 窪川花火大会
- ・ 11/ 6 音楽祭（大正）
- ・ 11/ 7 音楽祭（窪川・十和）
- ・ 11/ 8 台地祭り<生放送>
- ・ 11/16 窪川中吹奏楽部定期演奏会

(3) 四万十放送室

「ここ最近にあった出来事を放送」をコンセプトに、四季折々のイベントなどを取材しました。番組時間は、15分を基準とし、概ね3本のニュースをお送りしました。要望として多かった更新頻度を増やして欲しいという声に答えるべく、第3期は週2回更新としてお伝えしました。撮影現場では、使用する機材に工夫を加え、職員の撮影技術向上に努めるとともに、無駄のない収録を心掛けました。

また、放送項目が少ない放送回については、県内CATVの旬な話題を提供頂き放送するほか、営利非営利に関わらずイベントの告知などが出来る枠を確保しました。

更新回数の変更は特にご好評をいただきました。これまでアプローチがなかったイベントや団体からも取材依頼をいただく機会が増えたことにより、放送内容を充実させることができました。

(4) ケーブルテレビからのお知らせ

引落日を案内する番組や、機器の取り扱いに関する番組、利用者の疑問に答える番組等を制作しました。

(5) 他局番組放送の効率化

現在、テープ収録で行っている番組を、直接ノンリニア編集機に取り込み、送出 P2 カードに速やかに書き出せるよう技術的な構築に取り組みました。また、専用回線を用いたデータでの他局間番組交換を継続して行いました。

(6) 放送内容の周知

視聴者から、番組放送内容についての問い合わせが多いことから、番組表を編成改編時(年2回)に速やかに全加入者へ配布しました。また、電子番組表(EPG)の内容充実に努めるとともに、取材関係者への早めの放送時刻お知らせなどに努めました。

放送期間が終了した番組視聴へのニーズに応えるため、インターネット上に「みのがしうおっちゃんぐ」コーナを設置しました。放送終了後も1週間はパソコンやスマートフォン等を利用しての視聴が可能となりました。

(7) 番組視聴調査及びプレゼント番組の制作

加入者向けに実施したアンケートにご回答いただいた方を対象に、景品プレゼント当選者発表番組を制作しました(1/21放送)。また、回答内容を分析、整理したものをスタッフ内で共有、検討し、番組制作に活用しました。

2) 行政放送・議会中継

町の広報誌や町の取り組みと連動した番組制作について技術的支援を行いました。また、宅老所や消防団など町の助成を受け活動している団体の紹介や、町立施設の紹介などにも取り組みました。議会放送では、撮影、音声、字幕表示のオペレート業務を行うほか、録画、再放送に係る業務を担いました。一般質問の内容等(字幕)を分かりやすい色、表現での放送を行いました。

行政放送：40本制作、再放送13回

議会放送：生放送24回、再放送49回

3) 文字放送

利用団体が即座に放送できるような環境を維持し、円滑な放送を行いました。また、文字放送入力端末を操作できるスタッフの育成を行いました。

4) データ放送

データ放送入力端末の操作性およびデータ放送システム全体の課題を整理し、町との協議を行いました。「お悔やみ情報」の提供が早急に必要であることから、平成 27 年度に予定されている番組制御機器の更新に合わせて、文字放送と連携させた形式での提供を目指すこととなりました。平成 27 年度下半期から運用開始予定です。

5) 緊急時災害放送

町役場が実施する防災訓練への参加や、緊急時の放送訓練を定期的に行いました。

台風 11 号および 19 号が四万十町を直撃した際には、町と連携しつつ、L 字放送および文字放送を通じた情報提供を行いました。台風 19 号接近時には、町本庁舎からの緊急放送を行いました。

また、マルチコプターを活用し、勝賀野、檜生原などの災害現場を撮影し、11/4 には四万十町で開催された操作技術講習会の講師として公社職員が参加しました。

6) 番組特派員・住民ディレクター

前年度に引き続き、地域のコミュニティ形成を寄与するようパブリックアクセスチャンネルとして、地区住民が自らで様々な地域情報を放送するコミュニティ情報サービスを提供しました。

(1) 番組特派員

手軽に番組参加してもらう事を目的に公募した番組特派員に対して iPod を貸与し、町内各地に展開して日常の出来事を撮影し投稿していただきました。また、番組特派員には、取材方法、構成、撮影方法等の番組技術向上のステップアップを図りました。その他、番組特派員以外からもスマートフォンを活用しカメラ・編集アプリなどを利用した映像の投稿、新たな広告モデル開発（双方向型メディアの活用）など様々な地域情報を提供するための豊富なコンテンツを提供しました。

期末時点での番組特派員は 7 人（増減なし）。また、番組特派員以外にも 13 人からの投稿がありました（10 人増）。

- ・番組特派員からの投稿放送回数：20 回
- ・番組特派員以外からの投稿放送回数：88 回

(2) 住民ディレクターの養成

興津のダイビングセンターに勤めていた方から、貴重な海の映像を提供いただきました。その映像に触発された別の方からも海の映像を提供いただきました。

期末時点での住民ディレクターは 3 人（2 人増）。

- ・住民ディレクターからの投稿放送回数：29 回

2. 有料番組放送に関する事項

1) 顧客満足度 UP を目指して

加入者還元と顧客満足度 UP を目指し 11ch の自主放送番組との連携によるイベント連動広告を強化し、各番組供給会社と連携したチャンネル PR イベント等を実施しました。

5/3 : 十和こいのぼり公園で行われた「よってこい四万十」に出店。有料番組に関するアンケートの実施、無料 Wi-Fi 通信の提供および付加サービスの宣伝を行いました。

11/3 : 四万十緑林公園で行われた「米こめフェスタ」に告知用ブースを出店。

2) 新規番組採用等の編成見直し

新たな顧客獲得を目指す取り組みとして、多チャンネル放送のチャンネルラインナップを見直し、番組の拡充を図りました。

新規番組として、高知競馬実況中継およびフジテレビネクストを追加しました。

3. 通信に関する事項

1) インターネット通信事業に関する事項

インターネット通信品質の向上、システムの安定運用の確保に努めるほか、通信サービス品質確保への取り組みを行いました。ネットワークの保守点検、管理を日常から徹底して行うほか、各種システムサーバのリプレース時の各種サービスの増強、保守会社との連携、より一層の通信品質の向上、安定運用、迷惑メールの防止などに努めました。

2) フリースポット・エリア拡大の継続活動

昨期に引き続き、食事や買い物で立ち寄ってもらえる顧客へのサービスとして、無料で使える Wi-Fi スポットを町内各種店舗にアピールしました。

新規設置 6 か所（民宿おとりや、農家民宿おふくろ、柳瀬温泉、西村旅館、呑んで家、四万十川ほとりの宿、目標値 5 か所）。設置済み、のべ 24 か所。

3) 無線 LAN ルータプレゼントキャンペーン

インターネット未契約者、低速 128k コースをご利用中の加入者を対象に無線 LAN ルータを設置(LAN ケーブル配線含)し、インターネットへの接続設定サポートを行うキャンペーンを実施しました。

期間 : 11 月 1 日~12 月 27 日

新規加入 38 件 (目標値 60 件)

4) 高齢者向けインターネットサービスの取り組み

高齢者は町内人口の35%以上を占め、今後ますます増加する高齢者への配慮を視野に入れたインターネットサービスの導入に取り組みました。その先駆けとしてインターネット電話サービス【Skype（スカイプ）】を使ったインターネットの利活用を高齢者に向け提案しました。

十和振興局での相談会相談会（7/19）および米こめフェスタ（11/3）にて紹介しましたが、操作性の煩雑さ等の問題があり、今後の展開にはさらなる検討が必要と考えます。

4. 保安全管理に関する事項

1) 地上波・衛星テレビジョン放送等の再放送

地上波および衛星テレビジョンの再放送を行いました。またデジアナ変換終了の周知を行い、円滑に作業を行うことができました。

2) 放送・通信施設設備の適確な維持管理

日常の施設監視、計画的な保守・点検の継続により、不具合箇所の早期発見、設備の維持管理を実施しました。また、公社職員の保守技術力向上とCATVを取り巻く新技術の進展に対応する人材作りとして、講習会、セミナーへの参加によりCATV技術者資格の取得を進めました。

公社職員2名が、第2級CATV技術者資格（基本技術知識）を取得しました。これにより、第1級（受信調査・施工・システム）が1名、第2級が2名となりました。

3) 幹線管理伝送路の管理保全

伝送路監視設備による日常点検を行い、各種工事の実施に際しては適切に工事を実施しました。また、「幹線大規模断線」を想定したリスクの洗い出しを行いました。

台風等による増水を想定し、幹線のたわみや絡みなどの調査を行いました。特にリスクが高いと予想される箇所については、町との協議を行い対応を継続しています。

支障木による障害等を未然に防ぐことを目的として、平成25年度から3業者と伝送路支障木伐採業務契約を結んでおりましたが、現在のケーブルテレビ全体の経営状況では、加入者の利用料金から契約費用を賄うことが厳しい状況となりました。このことから、平成27年度以降の契約は結ばず、伐採が必要になった都度、3業者に依頼しながら引き続き支障木対応を継続します。

4) 大規模障害発生時の記録と報告

放送停止等の重大事故の大規模障害発生時において、放送事業者である四万十町への報告、四国総合通信局への報告および、規模や内容等詳細な情報を記録しました。

5) ケーブル施設機器の機器更新及び保守体制の計画

機器更新（リプレース）を控えて、町との協議を進めました。平成 27 年 3 月には、通信設備について更新に係る仕様の策定を公社が実施しました。また、平成 27 年度に予定される番組制御設備および通信設備更新作業の準備等についても実施しました。

5. お客さまサービスに関する事項

1) 契約内容の相互確認

契約内容に相違がないか相互に確認することを目的に、加入者への契約内容通知を実施しました。またこれに併せて、全加入者を対象としたアンケート調査を実施。加入者のニーズ把握等に活用しました。

2) 課金対応

確実な利用料金回収のため、滞納の恐れのある加入者に対しては督促状の送付や電話連絡等を行い、滞納している加入者に対しては、サービス停止措置等を行いました。また、加入者管理システムの更新を行い、通常業務に影響を及ぼすことなく、作業を完了しました。

3) 加入者個人情報の保護

「個人情報の保護に関する法律」に則り、加入者の個人情報保護に努めました。職員用コンピュータのセキュリティの徹底、事務所内の施錠、保管庫の管理、各センター設備も含めた適正な管理を行いました。

4) 補助・充実サービスの向上

有料番組、インターネット、IP 電話、その他、こんなサービスがあったらなど、四万十ケーブルテレビに入って良かったとさせていただくために、現状で足りない箇所のサービス向上を図りました。

5) 季刊誌の発行

広報誌「ONLINE」11号（6月）、12号（9月）、13号（12月）、14号（3月）を発行しました。

紙媒体の定期発行による広報活動については、一定の役割を果たしたと判断し、広報誌は 14号をもって休刊としました。今後は、区長文書等を利用したチラシの配布、自主放送番組内での告知およびインターネットを利用した広報活動を継続していきます。

【公益目的事業：地域情報センター】

1. 地域情報センターに関する事項

1) 地域情報データベース及び公開システムの運用

収集されたあらゆる情報の入れ物としてのデータベースとして、また、情報を検索し利活用できる Web サイトとして、情報検索システムの構築を行いました。

年度末時点でのレコード数は 870 件（目標値 1,000 件）。情報検索システムの一般公開は行いましたが（6/1）、情報の裏づけ調査などが不足しているため、一部レコードの試験的な公開に留まりました。

2) 地域情報の収集、編纂、提供

収集し、データベースに登録された情報を材料に、新たな情報として編纂し、まとまりをもった情報や時事性のある情報を自主制作番組等で提供しました。また、不明な情報について町民へ情報提供を投げかけるなど、町民参加への足がかりをつくりました。

（1）独自収集

町内の風景を中心に静止画および動画を蓄積しました。収集した情報は、インターネット上に公開しました。

- ・ 大道、下津井、藤ノ川など約 20 か所、静止画約 400 件、動画クリップ数約 500 件
- ・ 静止画の一部は画像共有サービス「パノラミオ (Panoramio)」へ投稿 (109 件)
- ・ 投稿した静止画のうちグーグル・アース (Google Earth) に 107 件採用された
- ・ 投稿した静止画のうち、小鶴津や大正芳川ほか各所がグーグル・マップ (Google Maps) に採用されている (正確な採用件数は不明)

（2）個人へのアプローチ

山内家宝物資料館が計画する県内での取り組みと連携しつつ、歴史、技術、暮らし、文化などについてインタビューを記録しました。

- ・ 地域の歴史や個人史などの聞き取り調査実績 6 名（目標値 10 名）
- ・ 6 月、床鍋の庄崎一さん、床鍋地区の昔
- ・ 7 月、窪川中津川の藤田伝次さん、戦時中の戦闘機の隠し場所など当時の様子
- ・ 10 月、香月が丘の吉村進さん・三好幸雄さん、下津井の佐川事業所や森林鉄道
- ・ 11 月、口神ノ川の谷脇秀生さん、ワラ馬
- ・ 11 月、志和の岩本民夫さん、志和地区の神社や歴史

(3) 団体へのアプローチ

地域で企画された写真展への協力（データ作成、目録作成）を行った。

- ・米ノ川地区文化祭「思い出の写真展」（平成 26 年 8 月開催、於：米奥集会所）
- ・展示後は希望者に展示物を渡して終了するとのことで、目録作成と写真のデータ化を提案
- ・展示物を預かってスキャンし、将来の利活用を想定した画像入りの目録およびデータを保管した CD-ROM を寄贈

(4) 情報化社会で生きるために必要な情報の提供

平成 26 年 9 月 23 日、窪川四万十会館でのイベント時に「3D プリンタ体験コーナー」を出店しました。

- ・16×16 のマス目を使って PC でスタンプをデザインし、その場で出力
- ・知名度があがりつつある 3D プリンタを実際を使って、オリジナルのものを作る体験を提供
- ・四万十町の立体地図など、出力サンプルも展示
- ・教育目的などでの活用方法を検討中

(5) 番組アーカイブの構築と公開

過去番組データのアーカイブ化を進め、動画共有サービスで情報提供を行いました。

- ・四万十うおっちゃんぐ、四万十放送室、行政放送、モバイル&ムービー、議会中継、特別番組の映像データをサーバとブルーレイディスクで保管（文字放送およびデータ放送は対象外）
- ・番組内容を文字化した目録データ（インデックス）を作成し検索性を向上
- ・10 月より、ケーブルテレビのブログで放送終了後 1 週間の「みのがし視聴」開始

3) 地域情報化の「お手伝い」としてサポート活動を行う

「地域情報検索システム」の運用、各種情報を編纂した成果としての「番組制作」および「インターネット上のコンテンツ」の提供を足がかりとして、情報提供から一歩進んだサポート活動の実現を目指して、関係機関との協議を行いました。

十和村時代の自主放送録画ビデオの整理を 3 月より開始し、町の合併 10 周年記念事業で使用する映像ソフトおよびパンフレット制作業務の受託を予定しています。また、昨年度に引き続き、議員向け iPad 講習を実施しました。

【収益事業：会館・公園事業（指定管理）】

1. 窪川四万十会館・四万十緑林公園の運営状況

指定管理に関する基本協定書に基づいて、窪川四万十会館（ホール、控室、多目的室）の利用拡大と事業内容の充実に努め、総数で14,610人の利用者がありました。

窪川四万十会館及び四万十緑林公園の管理運営においては、利用者サイドに立った弾力的な運営及びサービスの向上に努め、芸術文化の創造活動の推進など積極的な活動を行うことにより地域文化の普及に努めました。

窪川四万十会館については、年間5回の自主企画事業を実施しました。映画「うまれる」の上映と手づくり市を併催した「CherCher2014」の他、本年度は教育委員会と連携したイベント、NHKのラジオ番組「ふるさと自慢うた自慢」公開収録や宝くじ文化事業「イルカコンサート」、文化庁の優秀映画鑑賞推進事業などの補助事業に応募当選した事もあり、様々なジャンルのイベントを町民の皆さんに提供することが出来ました。

四万十緑林公園については、巡視等により遊具の不具合等の早期発見に努め、来園者が安心して過ごせる環境づくりを行いました。また、四万十手仕事市や米こめフェスタ等の行事利用がありました。

- ◆年間の会館利用者数：14,610人（目標値：17,000人）
- ◆ホール利用回数：年間49回（目標値：年間60回）
- ◆多目的室利用回数：年間303回（目標値：年間300回）

別紙1：窪川四万十会館利用状況一覧表

- ホール自主企画事業回数：年間5回（目標値：年間6回）

開催日	イベント名	入場者数	チケット料金
09月23日	CherCher2014	235人	一般800円・18歳未満：無料
11月28日	NHHふるさと自慢歌自慢	450人	NHK公開収録 招待
01月31日	優秀映画鑑賞推進事業Ⅰ	51人	1日券600円・2日券1,000円
02月01日	優秀映画鑑賞推進事業Ⅱ	33人	
02月28日	イルカほのぼのコンサート	438人	一般2,000円・小中高生1,000円

- ケーブル番組制作との共同取り組みについて

開催日	イベント名	主催者	ケーブル放送枠
07月27日	防災シンポジウム	危機管理課	企画番組枠
09月23日	CherCher2014	公社	モバイルムービー枠

11月07日	窪川ブロック小中連合音楽祭	音楽主任会	企画番組枠
11月16日	窪川中学校吹奏楽部定期演奏会	窪中吹奏楽部	企画番組枠

○ ボランティアグループ『ひびき会』への依頼イベント

開催日	イベント名	主催者
05月11日	カラオケショー	きずな
07月20日	ナツメロショー	ゆたか会
09月06日	芸能大会リハーサル	四万十町文化協会
09月07日	芸能大会	四万十町文化協会
09月14日	丸山歌謡ショー	丸山地区会
11月30日	樫本カラオケショー	樫本クラブ
12月06日	ジャズコンサート	山地高
01月25日	新春歌謡ショー	ゆたか会

2. 施設及び付属設備の維持管理に関する事項

窪川四万十会館及び四万十緑林公園も開館後19年を経過し、施設維持管理に欠かせない定期保守点検も行っていますが、経年劣化による設備機器修繕が年々増加傾向となっております。

四万十緑林公園内の定期巡視を実施した結果、公園施設に経年劣化によるもの、また腐蝕等が原因とされる修繕箇所が複数ありその都度補修修繕を行っています。また会館においても、空調機器は耐用年数を過ぎ、内外壁においては多数のクラック等が発生しているなど、施設の総合的な診断を実施する必要がある。

【法人部門】

1. 事業継続計画の運用

発災時の職員参集計画、通常放送の停止・緊急放送の開始手順、災害時にも事業が継続できかつ重要業務の操業レベルを早急に災害前に近づけられるよう行動項目の確認と訓練を実施し、その成果としての「事業継続計画」を第2期に策定しました。第3期では、日々の取り組みを継続しつつ事業継続計画の内容充実を図りました。

また災害時対策として窪川情報センター、大正サブセンター、十和サブセンターそれぞれに設置されている災害時等での停電対策用の自家発電設備への長期的な稼働を考えた際の対応策として、町内の給油所と災害協定締結に向けて協議を進めました。

・事業継続計画の内容充実

窪川四万十会館が大規模災害発生時一時的な緊急避難場所になる事から、有事の際に必要な物品を購入し充実させた。

- ・職員全員にヘルメット、業務上必要な職員には雨具一式（レインコート・雨靴）を支給
- ・水保管用タンク（10L×5個・20L×2個・500L×2個）

・ケーブルテレビ・四万十会館自家発電の災害時長期稼働対策

ケーブルテレビ自家発電設備（3箇所）は燃料満タン（195L）状態で約3日間、窪川四万十会館は約1日で稼働停止となる事から、町内の給油所と災害協定について協議を行った。